

2023年6月22日

各位

会社名 株式会社コプロ・ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 清川 甲介
(コード：7059、東証プライム・名証プレミア)
問合せ先 取締役 齋藤 正彦
(TEL. 052-589-3066)

第17回定時株主総会 質疑応答要旨

2023年6月21日開催の第17回定時株主総会における質疑応答要旨を開示いたします。なお、質疑応答要旨については、ご理解いただきやすいように表現の変更や加筆・修正を行っています。

Q：プライム市場上場維持基準の適合に向けて、どのように取り組むのか。プライム市場上場維持は難しいのではないかと。

A：今後、業界のリーディングカンパニーを目指し、業績拡大を志向する上で、企業価値の向上にはプライム市場が適していると判断している。業績拡大の取組みを中心に企業価値を向上させ、流通株式時価総額基準の適合を果たしたい。そのためには、公表した計画をまずは達成することが第一である。

Q：バンテリンドームに掲出している広告の効果は。

A：お客様や求職者に対する企業認知度の向上を目的に、ブランディングの観点から掲出している。効果をモニタリングしながら、継続の判断をしていきたい。

Q：23/3期は大幅な増収となったが、営業利益以下は減益となった。要因として、積極的な採用費のほかに、営業部門の増強に伴う人件費の増加と記載があるが、これは来期以降の業績拡大に向けた先行投資と理解してよいのか。また、M&Aによる販管費増加も一時的な要因か。

A：今後の更なる規模拡大に向け、属人的な手法から組織的なマネジメントへの変革が必要であるとの判断から、23/3期までは営業改革、そして採用改革に取組み、仕組みづくりに注力してきた。更に、23/3期は採用費を大幅に投入したのと同時に、増加する求職者との面接に対応する採用担当者等を増員した。これにより販管費が増加し、減益要因となった。24/3期も前期と同等水準の採用費を投入するほか、引き続き営業と採用の人員体制を増強していく。M&Aによりアトモス、バリューアークコンサルティング2社分の販管費が増加したが、あくまでも新規連結により前期対比で増加したものである。機械設計開発技術者派遣事業及びSES事業においても、積極的に採用費を始めとしたリソースを投入していく考えである。

Q：自己資本比率が高く、現預金が積み上がっている。内部留保に対する考えを教えてください。

A：当社は固定資産への投資が多く発生する事業ではない。内部留保の主な成長投資の使い道としてはM&A

である。直近では建設技術者派遣事業を展開する競合の新規上場が決まる等、業界でも動きが出てきている。中小のプレイヤーがまだまだ多い業界だが、ここから業界の寡占化が進み、勝ち組と負け組がはっきりしてくる。M&A を積極的に検討し、業界再編の中心に居たいと考えている。その他、IT エンジニアを手がける SES 領域や、エンジニアの教育研修等の周辺領域も視野に、手元資金を有効活用した非連続な成長を実現したい。また、23/3 期通期決算発表と同時に、配当方針を改め、連結配当性向 50%以上の目安を新たに盛り込んだ。事業年度ごとの利益については、株主の皆様と分かち合っていく。

以上